

令和6年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立 大谷場 小学校)

学校番号 015

目指す学校像	学校に関わる全ての人々が、自ら多様な個性を生かしながら成長し、子ども一人ひとりの輝く瞳と笑顔の実現に向けて協働する学校。
重点目標	1 学ぶ意欲や自己肯定感を高めるカリキュラム・マネジメント(学びの自律、探究的な学びの追求) 2 子ども一人ひとりが安心して学び、進んで運動する教育環境整備(子どもの姿の共有、健幸づくり) 3 親和的コミュニケーションでつながる、つなげる教育活動の展開(学校・家庭・地域の協働) 4 教職員がやりがいを感じながら学び合い、力を発揮する教職員研修(非認知能力の育成)

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学校自己評価			年度評価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況※( )内昨年度比	達成度	次年度への課題と改善策	実施日令和7年2月7日
1	(現状) ○情報機器の活用について教職員、児童ともに肯定的な意識が高い。 ○学習状況調査の平均正答率は、全国や市と比べて高い状況が続いている。 ○児童向けアンケート結果等から、「課題の解決に向けて自分で考え、進んで取り組んでいる。」「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。」と自信をもって答えられる児童の割合が他の項目と較べてやや低い傾向が見られる。 (課題) ○学習者用端末の持ち帰りと併せて、家庭の端末等で課題に取り組めるようにする ○デジタルをうまく使い、教員が課題を提示し、児童の解答、回答から役立つ情報を集め、それらを踏まえて授業、取組を改善していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>発達段階に応じた目標や内容を記した年間指導計画に基づき、情報リテラシーを計画的に育てる。</li> <li>探究的な学びにより、学ぶ意欲や自己肯定感を高める授業実践、カリキュラム・マネジメント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報リテラシーについて発達段階に応じた目標や内容を記した計画を作成し、低学年段階から、児童が端末を活用し、教室だけでなく、家庭でも調べたり、共同でまとめたりする学習に取り組めるようにする。</li> <li>さいたま市スクールダッシュボードについて、保護者や地域の方々の理解を得て運用、利活用する。</li> <li>民間企業等外部講師を招聘した学習、教員と児童がともに学び、試行錯誤しながら課題の解決を目指す探究的な学びを年間計画等に位置付けることで、より見通しをもちながら継続的に取り組めるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①情報端末やデジタル教材について、低学年では、学習に使うことができるようになったか。中学年では、課題解決のために使うことができるようになったか。高学年では、教室外でも活用できたか。</li> <li>②学習状況調査やスクールダッシュボードのデータを、児童の学習状況改善に役立てることができたか。</li> <li>③各学年で民間企業等外部講師を招聘した学習、教員と児童がともに学び、試行錯誤しながら課題の解決を目指す探究的な学びを実施することができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価に係るアンケートで、情報端末の活用に関する項目の肯定的回答の割合は、低学年児童で95%、中・高学年児童ではいずれも92%だった。また、教職員では88%だった。アンケートにおける保護者の記述回答では、学習者用端末の目的外使用や過度な使用、文字を書く機会の減少など、保護者から不安の声もあった。</li> <li>各学年で見学や体験的な学習を取り入れ、課題解決的な学習、探究的学びを行った。</li> <li>「様々な人々とのかわりの中で、自分の考えを深めている」という設問に、低学年児童の89%(-4P)、中学年児童の92%(-2P)、高学年児童の97%(+3P)が「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報端末や教育データの利活用を含め、児童一人ひとりが学習の目標を達成したり、自らの学びを振り返ったり、自ら学習の進め方を選び調節したりできるよう、授業改善に取り組む。</li> <li>総合的な学習の時間、道徳や特別活動と教科での学習を関連付けるとともに、家庭、地域の方々にも参画していただくことで教科等横断的、探究的、協働的な学びの充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校における学習者用情報端末の利活用について、単にアナログをデジタルに置き換えるのではなく、児童が自ら学習を調節しながら、目標を達成することに役立てるようにすることが大事である。</li> <li>家庭における情報端末利用の管理や使い方については、情報モラルに関する指導など、家庭でもできること、すべきことに責任をもって取り組むことも大切である。</li> </ul>
2	(現状) ○あいさつやいじめの防止について、児童会によるキャンペーンや自主的なゴミ拾い活動など、児童が主体的に取り組む姿が見られる。 ○学校評価に係るアンケートで、「場面や目的に応じて丁寧な言葉遣いができる」と肯定的な回答をした保護者の割合が比較的低い。 ○運動時間の減少や学習以外のスクリーンタイムの増加などの傾向、3年に渡るコロナ禍により、運動する意欲や気力の低下が危惧される。 (課題) ○市教委が進める「Sola ルーム」について、本校の実態に合わせて運用し、家庭地域の理解、協力を得る。 ○児童が自分から進んで運動できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校と保護者が子どもの姿を共有し、支援の在り方を話し合う機会の創出</li> <li>より多くの児童が楽しく、自分から進んで学び、運動できる場、機会の創出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間2回の個人面談(全員・希望)及び教育相談日の取組について、年間日程表を作成し、学校HPに掲載、周知することで、保護者が活用しやすい状況にする。</li> <li>学校課題研究における「考え、議論する」道徳の授業づくり、授業実践研究の成果を生かした取組を進める。</li> <li>日課を工夫し、運動の時間、機会を増やす。(ロング昼休みの新設、運動を自分で選び決める機会づくり)</li> <li>自由な雰囲気のもと、遊びの延長線上で運動に慣れ親しむような体力向上の取組を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①保護者は、個人面談や教育相談日、学校行事や授業参観・懇談会等の機会を活用し、子どもの学習、生活の様子を共有することができたか</li> <li>②授業参観等の機会に、道徳科の授業を公開するなど、保護者の理解を深め、協力を得ることができたか。</li> <li>③児童が「体育の授業が楽しい。」と感じているか。また、運動会や体力向上の取組に進んで参加しているか。</li> <li>④目的を明確にし、児童の実態を踏まえた体育授業、体力向上の取組、運動会等体育的行事が実施できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートで保護者の90%(+4P)が「学校と家庭で子どものよさやがんばりを共有することができている」と肯定的に回答した。</li> <li>全ての学級で、道徳教育と関連付けた授業を保護者向けに公開した。児童と保護者が一緒に考える機会を設けるなど、授業展開を工夫した。</li> <li>アンケートで「体育の授業は楽しい」と肯定的に回答した児童の割合は、低学年90%(-1P)、中学年89%(+1P)、高学年92%(+4P)だった。また、「進んで外遊びをしたり、体を動かしたりしている」と肯定的に回答した児童の割合は、低学年88%(-3P)、中学年89%(+4P)、高学年82%(+19P)だった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間計画や日課を工夫するとともに、よりデジタルを活用するなど学校の業務改善を一層進めることで、教員と児童保護者が関わる時間、語り合う機会を創出する。</li> <li>生涯体育や自ら取り組む健幸づくりといった視点から、多様な運動の楽しさを味わえる体育授業、体力向上の取組をより一層工夫していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昼休みの確保、ロング昼休みの新設、スクールアシスタントの重点的配置といった工夫が着実に成果を挙げている。</li> <li>例えば運動会について、半日実施ではあったが、内容や方法がよく考えられており、充実していた。目的を明確にして工夫改善することは、学校の業務改善にもつながるのではないか。</li> <li>Sola ルームや欠席時のオンライン授業の取扱いについて、現状としては適切である。</li> </ul>
3	(現状) ○令和4年度に立ち上がった、本校学校運営協議会では、目指す児童の姿について熟議を積み重ね、「親和的なコミュニケーション力」を育むことが大切との結論に至った。 (課題) ○長年に渡って積み重ねられてきた、SSN諸団体の多様な活動と豊かな経験を生かし、変化する社会に対応させ、5年後、10年後へとつなげていくことが求められる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校と家庭、地域が率直に話し合い、ともに学校をつくる雰囲気づくり</li> <li>子どもの学び、成長を支援するSSN諸団体による活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習室、自然観察園等を工夫し、PTA、防犯ボランティアの見回りコース等として、児童とふれ合ったり、環境整備等の活動に参加したりできるようにする。</li> <li>保護者、地域の方々が参観、参加参画できる場面を具体的に示し、学校HP等で周知する。</li> <li>「親和的コミュニケーション」をキーワードとして、学校運営協議会とSSNを一体的に推進する仕組みをつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①PTA保護者、地域の方々が「学校に行きたい。」「学校づくりに参画したい。」と感じているか。また、「参画の機会がある」と感じているか。</li> <li>②教職員や児童が学校運営協議会に参加する、家庭、地域が教育活動に参加できるようにするなど、学校と家庭、地域がお互いに率直に語り合うような場、機会をつくれたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートで「学校は学校づくりに参画する機会を提供している」と肯定的に回答したのは、保護者で83%、地域で100%だった。</li> <li>学校行事でのあいさつ、学校だより、SSN構成諸団体の会合等、様々な機会を捉えて「地域とともにある学校づくり」の大切さを発信した。</li> <li>第1回学校運営協議会では、児童と委員が語り合う場を設けた。</li> <li>児童の学習活動、除草活動にSSN構成員が参加できるようにした。また、年間を通して学校地域協働活動に取り組んだ。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートで、「学校に行きたい、参画したい」と肯定的な回答をしたのは、保護者で64%(-5P)、地域で74%(+13P)だった。</li> <li>SSN構成団体等のより自立的、主体的かつ協働的な活動を促し、保護者、地域住民の学校参画意識を一層高める。</li> <li>学校教育と地域自治の結節点ともいえる学校運営協議会の熟議充実のため、開催回数年間3回の確保の外、委員による学校視察訪問の日常化を進めるなど工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果を見ると、多くの保護者が学校を信頼し、安心して子どもを通わせていることが伺える。</li> <li>社会構造の変化により、特に保護者世代の参画には難しさがある。学校地域協働活動等について、年間予定を共有できる仕組みがあるとよいのではないか。</li> </ul>
4	(現状) ○教員等の意識調査の結果から、全体として職務にやりがいや満足感を感じている。具体的には、「児童に学力が身に付いたと実感したとき」「児童と協働して成果をあげたとき」「児童によい変容が見られたとき」「保護者や地域、児童から感謝されたとき」にやりがいや満足感を感じるとの肯定的な回答が多い。 (課題) ○学校評価に係る保護者アンケートでは、全体的に見ると肯定的な回答の割合が高いが、子どもの主体性や自己肯定感に関する項目で肯定的な回答の割合が低くなる傾向が見られる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どものよい変容を見取り、評価し、学びがいを実感できる教職員研修</li> <li>授業の質を高め、やりがいや満足感を一層高めるための業務改善、学校行事等教育活動の工夫改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の「教育に携わる者として自ら成長するとともに、児童とともに学び、子ども一人ひとりの力を引き出し、伸ばしたい」という思いを支えるため、学校自己評価の手法等について工夫改善を図る。</li> <li>限られた時間、物、予算、そして人により教育活動の質の維持、向上を図るため、PTA保護者、SSNとの協働を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①アンケートの回答率を維持向上させるとともに、子どもの成長、よい変容を共有、実感することができたか。</li> <li>②教職員の意識調査について、高いやりがいや満足感を維持するとともに、家庭、地域の参画による教育効果を感じることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートで「学校生活を通して、自分のよさを見つけることができた」と肯定的に回答した児童の割合は低学年で89%(-2P)、中学年で88%(+5P)、高学年で89%(+2P)だった。</li> <li>保護者向けアンケートの回答率は77%となり昨年度と同じだった。</li> <li>アンケートで「子どものよい成長、変容を共有、実感することができた」と肯定的に回答した教職員の割合は92%(±0P)だった。</li> <li>保護者アンケートの記述欄には、肯定的な意見、教職員への感謝の言葉が多く寄せられた。また、学校での学習・生活に関する多種多様な要望、期待が挙げられている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「子どもがどのような力を身に付けることが大切か」「どのような人間に育ってほしいか」「教科の見方・考え方とは何か」など本質を語り合う研修、自ら授業力、指導力を高めるために磨き合い高め合う教職員研修を目指す。</li> <li>教科等の目標を踏まえ、全ての児童にとって「たのしく、ためになる」教育活動の具現化に向け、多面的・多角的に見て、よりバランスのとれた教育課程の編成、実施に臨む。</li> <li>子どものよい成長、変容を引き出す教職員集団、より保護者、地域住民の期待に応え、これからも愛され、励まされる学校づくりに取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登下校、学校行事、会食などの姿や学校評価に係るアンケート結果などから、大谷場小学校の子ども達は全体としてよく育ち、素晴らしいと言える。これは、学校、家庭、地域が前向きな信頼関係でつながっているからであり、その信頼関係は学校教職員の努力があってこそのものである。教職員の皆さんに感謝とねぎらいの気持ちを伝えたい。</li> </ul>